

34 Beacon Street, Boston, Mass.

成城大学法学部教授 成田 博

米国マサチューセッツ州ボストン市ビーコン通り34番地 [= 34 Beacon Street, Boston, Mass.] は、長く Little, Brown & Co. の所在地であった。

Little, Brown & Co. は、Charles C. Little (1799年生、1869年没) と James Brown (1800年生、1855年没) の2人によって作られた会社であるが、1784年、Ebenezer Batteletteがボストンの Marlborough Street で小さな書店を開いたところから話は始まる。この店は、幾人かの手を経て、1812年、ケンブリッジで教師をしていた Jacob A. Cummings と Harvard University Book Store を営んでいた William Hilliard の手に渡った。このときは、Boston Bookstore と呼ばれていたという。Cummings には School Atlas to Cummings' Ancient & Modern Geography をはじめとする著作があり、インターネットで検索すると、同書は Cummings and Hilliard が刊行したとあって、2人は既に出版を手掛けていたことがわかる。1815年になって、16歳の Timothy Harrington Carter を雇ったが、やがて、この若者が店を取り仕切るようになり、1823年、その名称は Carter, Hilliard & Company となった。そこに Charles C. Little が入ってきて事務員として働き始めた。こののち、Harrison Gray が加わり、1827年、社名は Hilliard, Gray & Co. に変わった(この会社は、1839年の著作権に関わる判決 Gray v. Russell, 10 Fed. Cas. 1035, Case No. 5,728 に名を残す)。同年、Carter は店を離れた。

さて、もうひとりの創業者である James Brown は、と言えば、13歳のときに父親を亡くし、15歳の時にケンブリッジへ来て、ハーヴァード大学教授 Levi Hedge の家の使用人となったが、1818年、Hedge 教授の推薦で Hilliard の経営していた Harvard University Book Store に勤めることになった。やがてそのパートナーになり、Hilliard, Gray & Co. の権利の一部も取得するに至った。

こうした経緯で Charles C. Little と James Brown は知り合うことになったが、1836年、Hilliard が亡くなり、翌1837年の6月29日、2人は Copartnership の結成を伝える小さな広告を Boston Daily Adviser に出した。もっとも、その名称は Charles C. Little & Co. となっている。その後も、書物のタイトル・ページには Charles C. Little and James Brown、あるいは、C. C. Little and J. Brown とあるだけで、Little, Brown and Company と名乗るのは1847年からのことである(ちなみに、1846年刊行の Catalogue of Law Books Published and For Sale By Charles C. Little and James Brown が2007年に復刻されている)。

同社は、Hilliard, Gray & Co. が出版していた書物を引き継いだことから、創業僅か3年にして、Joseph Story, Commentaries on Equity Jurisprudence (2d ed., 1839) を刊行できた。Carter は Hilliard に法律書の出版を強く促していたらしく、これが、Little, Brown & Co. から多くの法律書が刊行されることに繋がった。

Little, Brown & Co. は、1937年に100年史を、1962年に125年史を、そして、1987年に150年史 (One Hundred and Fifty Years of Publishing 1837-1987) を刊行しているが、ここでは150年史からそのごく一部を紹介した。